

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アイシン精機株式会社 (仮称)新工場	階数	地上3F
建設地	愛知県刈谷市	構造	S造
用途地域	工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	350 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,000 時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年6月 予定	評価の実施日	2016年4月15日
敷地面積	12,576 m ²	作成者	田中 光城
建築面積	5,798 m ²	確認日	2016年4月18日
延床面積	17,240 m ²	確認者	山田 英樹



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 4.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 67%

③上記+②以外の 67%

④上記+ 67%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.7

LR のスコア = 4.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 5.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p>	<p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em; text-align: center;">49.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em; text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p>	<p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音			3.1	0.15				3.9
1.2 遮音			3.0	0.40				3.9
1.2.1 開口部遮音性能		T2以上	3.4	0.40				
1.2.2 界壁遮音性能			5.0	0.60				
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			1.0	0.40				
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-				
1.3 吸音			3.0	0.20				
2 温熱環境								
2.1 室温制御			4.0	0.35				4.0
2.1.1 室温		事務室・年間24℃の設備容量確保	4.2	0.50				
2.1.2 外皮性能		屋根U=0.94、外壁U=0.56、窓U=2.5	5.0	0.38				
2.1.3 ゾーン別制御性			5.0	0.25				
2.1.4 3			3.0	0.38				
2.2 湿度制御		45~55%の湿度の範囲を実現可能な設備容量確保	5.0	0.20				
2.3 空調方式			3.0	0.30				
3 光・視環境								
3.1 昼光利用			3.5	0.25				3.5
3.1.1 昼光率			2.2	0.30				
3.1.2 1			1.0	0.60				
3.1.2 2			-	-				
3.1.2 3		ハイスାଇドライ設置	4.0	0.40				
3.2 グレア対策			3.0	0.30				
3.2.1 1			3.0	0.30				
3.3 照度		タスクアビエント採用かつタスク照度500Lxアビエント照度160Lx以上	5.0	0.15				
3.4 照明制御		昼光センサー採用	5.0	0.25				
4 空気質環境								
4.1 発生源対策			4.8	0.25				4.8
4.1.1 1		F☆☆☆☆の建築材料使用、VOC放散量の少ない建材を使用	5.0	0.50				
4.1.1 2			5.0	1.00				
4.2 換気			4.3	0.30				
4.2.1 1		35m ³ /hの換気量	5.0	0.33				
4.2.1 2			3.0	0.33				
4.2.1 3		各種排気口と異なる方位で、かつ6m以上離れている	5.0	0.33				
4.3 運用管理			5.0	0.20				
4.3.1 1		中央でCO2管理を行う	5.0	0.50				
4.3.1 2		ビルの禁煙	5.0	0.50				
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ			4.8	0.40				4.8
1.1.1 1		1人当りの執務スペース12㎡以上	5.0	0.40				
1.1.1 2		OAコンセント容量50VA/㎡以上キープかつGigabit回線を採用(弱電)	5.0	0.50				
1.1.1 3			5.0	0.50				
1.2 心理性・快適性			5.0	0.30				
1.2.1 1		天井高2.9m以上確保	5.0	0.33				
1.2.1 2		執務スペースの1%のリフレッシュスペース有、自販機設置	5.0	0.33				
1.2.1 3		照明計画と内装計画を一体として計画	5.0	0.33				
1.3 維持管理			4.5	0.30				
1.3.1 1		内壁、床面に防汚性の高い仕上を採用	4.0	0.50				
1.3.1 2		維持管理機能の確保において、充実した取り組みがされている	5.0	0.50				
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震			3.3	0.31				3.3
2.1.1 1			3.0	0.48				
2.1.1 2			3.0	0.80				
2.1.1 3			3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数			3.1	0.33				
2.2.1 1			3.0	0.23				
2.2.1 2		② 内装仕上げ材の更新必要間隔が20年以上	2.0	0.23				
2.2.1 3			5.0	0.09				
2.2.1 4			3.0	0.08				
2.2.1 5		② 主要な用途の上位3種の2種類以上にC以上を使用	4.0	0.15				
2.2.1 6			3.0	0.23				
2.4 信頼性			4.6	0.19				
2.4.1 1		災害時系統優先運転、設備吊り対策	5.0	0.20				
2.4.1 2		洗浄少量器具、中水の利用、使用不能低減、受水槽蛇口	5.0	0.20				
2.4.1 3		非常用発電設備を備えている	4.0	0.20				
2.4.1 4		耐震クラスA対応	4.0	0.20				
2.4.1 5		通信手段の多様化、ネットワーク機器用は無停電装置の設置	5.0	0.20				
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり			4.8	0.29				4.8
3.1.1 1		階高3.9m以上確保	5.0	0.31				
3.1.1 2		壁長さ比0.066	5.0	0.60				
3.1.1 3		荷重のゆとり4500N/㎡以上	5.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり			5.0	0.31				
3.3 設備の更新性			4.6	0.38				
3.3.1 1		② 構造部材、仕上げ材を痛めることなく、空調配管更新・修繕可	4.0	0.17				
3.3.1 2		構造部材、仕上げ材を痛めることなく、更新・修繕可	5.0	0.17				
3.3.1 3		構造部材、仕上げ材を痛めることなく、更新・修繕可	5.0	0.11				
3.3.1 4		仕上げ材を痛めることなく、更新・修繕可	5.0	0.11				
3.3.1 5		設備機器更新のルートの確保 かつ建物機能の継続可	5.0	0.22				
3.3.1 6		バックアップスペースの確保	4.0	0.22				

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数		
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③	生物環境の保全と創出に関して十分に配慮している	4.0	0.30	-	-	4.0	
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	周辺のまちなみに対して標準以上の配慮がされている	4.0	0.40	-	-	4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		3.0	0.30	-	-	3.0	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.703	5.0	0.15	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用		ハイサイドライト設置、自然エネルギー直接利用量30.9MJ/年㎡	5.0	0.24	-	-	5.0	
3 設備システムの高効率化			5.0	0.37	-	-	5.0	
集合住宅以外の評価(3a.3b)		BEI=0.61	5.0	1.00	-	-		
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-		
4 効率的運用			5.0	0.25	-	-	5.0	
集合住宅以外の評価			5.0	1.00	-	-		
4.1 モニタリング		システム効率の評価を行い、システム性能の評価が行える	5.0	0.50	-	-		
4.2 運用管理体制		エネルギー消費量の目標管理がされること	5.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価			-	-	-	-		
4.1 モニタリング			-	-	-	-		
4.2 運用管理体制			-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源保護								
1.1 節水		節水コマかつ省水型機器を使用	3.8	0.15	-	-	3.8	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.40	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用	3.6	0.60	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無			4.0	0.67	-	-		
			3.0	0.33	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減			3.8	0.63	-	-	3.8	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			2.0	0.07	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.25	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	再生クラッシュラン、再生インターロッキング、ラス型枠	3.0	0.21	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			5.0	0.21	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	躯体、仕上げ材、設備の容易な分別が可能	-	-	-	-		
			5.0	0.25	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用		指定化学物質を含有しない建材種別が4つ	3.9	0.22	-	-	3.9	
3.2 フロン・ハロンの回避			5.0	0.32	-	-		
1 消火剤			3.5	0.68	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0かつGWP<50の発泡剤を用いた断熱材を使用	-	-	-	-		
3 冷媒			4.0	0.50	-	-		
			3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2概算値:67%	4.3	0.33	-	-	4.3	
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止			3.3	0.33	-	-	3.3	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.25	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.50	-	-		
1 雨水排水負荷低減	独自	既設の為、法規制なし+地下ピットを雨水貯留槽とする	4.5	0.25	-	-		
2 汚水処理負荷抑制	独自	排出基準をみたし、汚水処理負荷を高く抑制している	4.0	0.25	-	-		
3 交通負荷抑制	独自	自転車、駐車スペースの確保 導入路位置形状の配慮	5.0	0.25	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制		分別回収を推進するための空間整備や設備の設置	5.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.6	0.33	-	-	3.6	
1 騒音	独自		4.0	0.40	-	-		
2 振動	独自	振動規制法に定める現行の規制基準より大幅に抑えられている	3.0	0.50	-	-		
3 悪臭			5.0	0.50	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制								
1 風害の抑制			-	-	-	-		
2 砂塵の抑制			3.0	0.40	-	-		
3 日照障害の抑制			3.0	0.70	-	-		
3.3 光害の抑制								
1 屋外照明及び屋内照明の光の外へ対策		光害対策ガイドラインのチェック過半数以上、広告物照明なし	4.4	0.20	-	-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			5.0	0.70	-	-		
			3.0	0.30	-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

アイシン精機株式会社 (仮称)新ラボ建設工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.8	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.11	外構緑化:49.92%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 良好な室内環境の確保と、建物の長寿命化を目指す。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・化学汚染物質の発生しない仕上げ材を採用することにより、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 将来の可変性の向上、メンテナンスフリーを目指す。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・立地特性 道路沿いに豊かなグリーンベルトを創出 ・植物の保全 敷地内の桜を復元
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 設備システムの効率化により、建築物の環境負荷を低減。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 有害物質を含まない材料を積極的に採用する。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に対し十分な対策をとる。
その他	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。